

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月日実施)	総合評価(月日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	社会に出て活用できる基礎、基本的な学力(確かな学力)を身につけさせるためにきめ細かい学習指導を行う。本校の育てたい生徒像の実現に向けた系統性のある教育課程を編成する。	生徒の学習理解度を検証し、学び直しを含め、より効果的な学習方法を研究する。引き続き、生徒の「わかる授業」に向けた研究授業、研修会等を開催し、授業改善を進める。確かな学力育成に向けて、教育課程の見直しを継続して行う。	リクルートの到達度テストの結果や生徒による授業評価を活用して生徒の学習理解度を検証し、研修会での討議等により授業改善を進める。研究授業、研修会等を開催し、生徒の現状を踏まえて授業改善を進める。確かな学力向上と新学習指導要領を意識し、新たな教育課程の研究と改善を行う。	生徒による授業評価の結果が向上したか。授業改善に向けて、効果的な方策を考え、共有することのできる研修ができたか。生徒の学力について実効的な分析ができたか。教育課程の見直しができたか。					
2 生徒指導・支援	モラル・マナー・ルールを遵守する心を育成し、高校生として良識ある行動ができるように規範意識の醸成を意識した生活指導の充実を図る。コミュニケーション力を育成するとともに、様々な個性を持つ生徒が安心して学校生活を送れるようにインクルーシブ教育を意識した支援体制の充実を図る。	服装指導体制を全職員に周知して指導体制を再構築するとともに、授業規律を確立する。生徒の自主的活動を支援し、生徒会行事や部活動の充実を図る。SCやSSW及び外部組織と連携した教育相談体制を構築する。また職員間の情報共有のあり方を改善し、支援体制の充実を図る。	生徒・保護者へ服装指導の徹底を通知するとともに、全職員が共通理解を持って指導する。また、式典・定期試験中の服装指導をより徹底して行なう。生徒会を中心とした行事の活性化を図る。教育相談コーディネーターを中心に、SCやSSWと連携した支援体制の充実を図る。心理性格診断テストを導入し、生徒一人ひとりの困り感を把握する。	生徒の服装に変化が見られたか。また、式典・定期試験時に適した服装で臨む生徒が増えたか。生徒会活動等が充実したか、積極的な活動ができたか。個人面談、三者面談等を通して、生徒の困り感に十分対応できたか。SC、SSWと連携を図ったケース会議を行い、一定の教育効果が得られたか。					
3 進路指導・支援	一人ひとりの生徒が自らの進路実現を可能にするために、職業観や勤労観を育成し、計画的かつ系統的な指導体制及び支援体制の充実を図る。	一人ひとりのキャリア発達を各学年に応じ、「キャリア教育実践プログラム」を通して支援する。また、その課題を発見し、各学年、教科とともに改善を加える。	基礎学力と進路結果の相関を継続的に検証し、多様な進路希望を持つ生徒の、進路選択や受験指導に活かす。進路カウンセリングや、進学・就職に向けた実践的な各講座を充実させる。インターンシップを通して職業理解を深め、適正	基礎学力と進路志望の相関を検証する体制を作ることができたか。卒業時の進路未決定率が低下したか。進路カウンセリングや講座の内容を充実させることができたか。					

視点	4年間の目標 (平成28年度策 定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月日実施)	総合評価(月日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	福祉科においては、介護福祉士養成を主とした福祉教育を展開する。	介護福祉士国家試験合格率の向上を目指すとともに将来の福祉の担い手となる人材育成を図る。	を見極め、資質や能力の向上を図る。介護福祉士国家試験に向けた学習を2学年から段階的に取り入れていく。各種検定や模試を効果的に活用し、より国家試験に即した実践的な学習をすすめていく。福祉・介護におけるリーダー育成のための養成課程の在り方を見直し、更なる充実を図る。	インターンシップへ参加する生徒が増えたか。介護福祉士国家試験の合格率が向上したか。福祉・介護分野への進学及び就職に興味を持ち進路選択する生徒が増えたか。					
4	地域等との協働 家庭、地域社会と協働や連携する機会を充実させる。 学校の情報を積極的に発信し、地域社会から理解され、愛される学校づくりを推進する。	P T A活動などを通して家庭・保護者との連携を図る。学校説明会や広報活動の推進により、本校の様々な特色ある取組みについて理解を得る。	多くの保護者が協力し、参加できる活動を計画、実施し家庭との連携を深める。学校説明会の時期や内容を改めて見直し充実を図る。ホームページに留まらず、テレビ・新聞や広報誌等に生徒の様子を積極的に紹介できるように働きかける。	P T A活動への参加人数が増えたか。学校説明会への参加者が増えたか。また協力生徒の参加人数が増えたか。ホームページを定期的に更新し、情報発信ができたか。また、校内広報誌及び津高新聞などを地域に広めることができたか。					
5	学校管理 学校運営 すべての教員が事故・不祥事防止に取り組み、地域から信頼される学校づくりを行う。 防災意識を高め、生徒が安心・安全に学校生活を送れるようにする。	事故・不祥事防止を念頭に置き、校務の様々な書式や方法について改善を行う。防災用品や備蓄食料を整え、効果的な防災訓練を実施する。校内の環境整備を学校全体で推進する	職員会議などの教職員が集まる機会を利用して研修を実施しお互いの意識の向上と共通理解を深める。災害発生時に備え、必要な生徒全員分の備蓄食料や備品等を整える。効果的な避難訓練の方法を考え実施する。校内環境の整備を呼びかけ、学校全体で学習環境の整備に努める。	年間を通して、不祥事防止会議を定期的に行うことができたか。生徒に対して、効果的な避難訓練を実施することができたか。適正な備蓄食料、備品の確保ができたか。生徒・職員共に校内環境整備に取り組めたか。					